【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第６部門第３区分
【発行日】平成21年11月12日(2009.11.12)

【公開番号】特開2007-265436(P2007-265436A)
【公開日】平成19年10月11日(2007.10.11)
【年通号数】公開・登録公報2007-039
【出願番号】特願2007-173936(P2007-173936)
【国際特許分類】
Ｇ０６Ｑ　50/00　　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｇ０６Ｆ　17/60　　１２６Ｎ

【手続補正書】
【提出日】平成21年9月18日(2009.9.18)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００５５
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００５５】
〈処方量変更〉
上記変更ボタン１５ｂが押された場合，すなわち処方量についての修正を行う場合の，制御部７の処理手順について説明する。
この場合には制御部７によって前記のように図２６に示す処方画面１６ａが表示される。このとき，図２６の投与スケジュール表示部１６ｂには，その薬剤の投与日に投与マーク１６ｃが表示される。投与マーク１６ｃは，薬剤の投与量の相対的変化をシンボルマークで表現したものであり，ここではその一例として横向き矢印で示されている。この矢印には，３つの種類がある。すなわち横向き矢印→，下向き矢印↓，上向き矢印↑のいずれかが表示される。投与マーク１６ｃの表示のない日付には，その薬剤の投与がないことを示している。
ここに→は，その日の投与量が，前回の投与量と比べて変化がないことを意味している。
↑は，その日の投与量が，前回の投与量と比べて増加していることを意味している。
↓は，その日の投与量が，前回の投与量と比べて減少していることを意味している。
ただし，投与量の変化は，絶対的変化ではなく，体表面積などにより修正された相対的変化を問題とする。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００５６
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００５６】
たとえば，体表面積に応じて投与量が変化する薬剤について，前回投与日と比較して今回投与日には体表面積が１０％減少した場合に，今回の投与量は体表面積の変化に応じて自動的に１０％減少したものになる。従って，上記投与マークの判断基準が絶対量であれば，上記投与量の１０％減少によって，下向き矢印↓が付されなければならないが，ここでの判断基準は体表面積などに応じた相対的変化を問題とするので，投与マークは→のままとなる。

逆に体表面積に応じた投与量に規定された薬剤について，体表面積が１０％減少したにもかかわらず，医師において投与量を確保するために前回の投与量と同量となるように医師が変更した場合には，投与マークは，↑が表示される。

この画面の表示に当たって，制御部７は，患者に関するマスタとして，患者療法マスタ属性（図３５参照），患者療法マスタ処方患者，患者療法マスタ処方投与，患者療法マスタ処方明細（図３６参照），患者療法マスタ処方用法，患者療法マスタ処方コメントの各テーブルを参照する。

【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００５９
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００５９】

上記投与マークとしての，→，↓，↑などは，その一例であり，要するに投与量の相対的変化が一目瞭然にわかるようなものであれば，上記矢印にこだわるものではない。

このように薬剤の投与量の変化が，矢印などの記号により表示可能であるので，薬剤投与量の実質的な変化を目視で直感的に評価でき，忙しい医療の分野で投与量の変化に関する見間違いが極めて少なくなるという優れた効果を達成することができる。

また図２７には，患者の身長や体重が表示されており，これらから計算された体表面積も表示されている。前記したように，処方された薬剤が，体表面積あたりの重量で計算されている場合には，患者の体表面積の変化に応じて薬剤の投与量が自動的に変更される。